

手術技術度DとEの手術件数

定義

外科系学会社会保険委員会連合(外保連)「手術報酬に関する外保連試案(第9.2版)」 「内視鏡手術試案(第1.3版)」において技術度D、Eに指定されている手術の件数です。1手術で複数のKコードがある場合は、主たる手術のみの件数とします。

算式

実数

当院の値(調査期間)

R1年度	7,490 件(年間)
H30年度	7,662 件(年間)
H29年度	7,197 件(年間)
H28年度	6,935 件(年間)

項目の解説

国立大学附属病院は急性期医療の要であり、外科治療の能力が必要であることは項目2「手術室内での手術件数」の説明の通りです。この指標は、単に手術件数だけでなく、どの程度難しい手術に対応できるのかを表現する指標です。手術の難しさと必要な医師数を勘案した総合的な手術難度を技術度といいますが、外科系学会社会保険委員会連合の試案では、2,000種類余りの手術をそれぞれ技術度AからEまでの5段階に分類しています。技術度D及びEには熟練した外科経験を持つ医師・看護師や器具が必要なので、難易度の高い手術といえます。なお、調査対象期間中に技術度を定める試案が更新されているため、単純な数値比較は難しい点にご留意下さい。